

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300133
法人名	社会福祉法人 くりのみ会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所
所在地	愛媛県四国中央市土居町津根3008-1
自己評価作成日	平成 27年 9月 1

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数で温かみのある家庭的な雰囲気の中で生活を共にしながら個別にケア(介護)を行ないます。健康管理に十分注意して急変時や特変事は、すぐに協力医療機関と連携を図り、対応できる環境にあります。また、施設内にあるリハビリ施設を利用して一人ひとりにあったリハビリを行い、心身の機能の低下を図ります。
ユニット内でレクや季節にあった手芸・工作を行なうことで楽しみのある生活を送り、また、施設のユニット間の交流を図ることで、生活に張り合いを持たせるように取り組んでいます。
慰問や散歩、外出等で多くの方とふれあう機会を設ける。また、ゆったりとした時間を過ごせる環境を提供できるように取り組みます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型介護老人福祉施設・短期入所生活介護・通所介護が併設された複合施設となっている。整形外科医である法人代表者の方針で、敷地内にはリハビリテーション専門棟やグランドゴルフ等ができる芝生の広場が作られ、介護度が高い利用者も、積極的に身体を動かす機会が持てる環境になっている。施設全体が壁面にガラスを多く使用し、窓も大きく設置していることで、大変明るく陽当たりのよい環境となっている。複合施設の2階に事業所があり、利用者・職員共に穏やかな雰囲気、ゆったりとした時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所
(ユニット名)	くりのみ土居
記入者(管理者)	
氏名	白川雄一
評価完了日	27年9月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念を朝の申し送りやカンファレンスの前に斉唱して理念を常に意識できるように継続しています。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作られた理念を現在も継続しており、申し送りの際など、毎日声に出して読み上げている。事業所内にも掲示しており、日常的に職員の目に留まるよう工夫している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 四季折々で、外出を行っています。また、施設全体でのイベント(納涼祭・敬老会)にご家族の方や地域の方を招待して交流を図っています。その他に積極的に慰問やボランティアを受け入れ交流を図っています。</p> <p>(外部評価) 8月に開催している納涼祭は、事業所だけではなく、複合施設全体で大規模に開催している。近くの保育所園児や地域住民、利用者の家族等も招待し交流している。また、小学生の社会見学として施設見学を受け入れており、子供達との交流の機会が多い。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議や慰問やボランティア受入時に認知症について話をしたり、理解を深めていただけるような場を設けています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に入居者様も参加して、自由に意見を言ってい ただいています。問題点や指摘点などがあれば職員間で話し 合います。それに対しての改善点がみられた場合も運営推進 会議で報告するようにしています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、偶数月の最終木曜日の午後で開催してお り、毎回10名程度の参加がある。以前に比べると、利用者 家族の参加が減ってきているため、参加しやすくなるような 工夫を現在検討中。会議内では、防災等について活発に意見 交換ができています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 月に1回、ふれあい相談員さんが訪問され、情報交換を行っ ています。その都度、気になったことはその場で話し合っ ています。</p> <p>(外部評価) ふれあい相談員による月1回の訪問の他、地域包括支援セン ターの職員とは日頃より密に連絡を取るよう心掛けてい る。運営推進会議の案内や会議録等は、郵送ではなく持参す る等、積極的な連携に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 施設設備の離床センサーを活用して、身体拘束を行わないよ うに努めています。必要に迫られたときは、職員間で直ぐに 話し合う場を設けています。また、自施設で勉強会・委員会 を開催し、それに参加して知識を共有し活用できるように努 めています。</p> <p>(外部評価) 定期的開催している職員研修でも、身体拘束をテーマに取 り組んでいる。利用者への声掛けについても注意を払ってお り、職員が記載している記録においても、不適切な表現等が あれば、その都度、先輩等が注意するようにしている。利用 者の状態により、離床センサー機能の付いたベッドを使用し ているが、使用は必要最小限にとどめるよう心掛けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会・委員会を開催し、高齢者虐待防止法などの講習を行うことで意識を深め、虐待の防止に努めています。また、啓発用のポスターを見える所に貼付し、常に職員一人ひとりが意識できるようにしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開催し、他の職員と知識を共有し活用できるように努めています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする時にパンフレットや利用契約書、重要事項説明書等の書類で詳しく説明をしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等の意見や要望は、面会時や日常報告の電話連絡時に直接聞けるように努めています。いただいた意見に関しては、職員間で話し合う場を設け、積極的に改善できるように努めています。また、目の届くところに『意見箱』を設置し、直接いい辛いことがあれば、活用して戴くようにしています。	
			(外部評価) 事業所内に意見箱を設置しているが、実際には直接話を聞くことが多い。季節に応じた衣類やタオルケット類等寝具などの入替えを、可能な家族にはお願いすることによって、事業所へ足を運んでもらう機会が少しでも増えるよう工夫している。遠方の家族には、電話で近況を報告するなど、家族とのコミュニケーションには積極的である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングの際に管理者と職員間で話し合う場を設けています。また、お互いに普段から意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。	
			(外部評価) 職員の意見は、日頃より主任クラスの職員が聴いている状況であり、それを管理者に伝える形になっている。主任の工夫や人柄もあり、相談しやすい話しやすい雰囲気になっているが、それでも、なかなか意見が出せない職員がいたら、主任より声を掛ける等、皆からの意見が引き出せるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給時、職員間の良く努力をしている所や実績などについて本人と話す機会を持つようにしています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的と同グループ職員と合同の勉強会を行っています。また、外部研修の場に参加できるように努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などで知り合った方々と定期的に連絡を取り合って交流を図っています。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にお話を十分に伺い、なるべく入居者に関しての不安を取り除くようにしています。また、入居後も不安や要望を会話や行動の中から様子を伺い、注意しながらケアを行っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族が不安に思っている事や家族の希望などを必ず聞くようにしています。また、面会に来られた際などにも積極的に、ご家族に声をかけ、話を聞きだせるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレットや施設見学等で説明をしたり、介護保険の内容をわかりやすく説明しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作り、居室の掃除、洗濯や洗濯干し、ゴミ出し等、各入居者ができることは、負担がないように自分で行っていただき、必要に応じて見守りやその入居者に合った支援を行っています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何かあれば気軽に連絡をとり、来室していただけるようにしています。イベント行事には、参加して頂けるように連絡をしています。意見や気づきを職員と家族がお互いに言い合えるような関係作りが出来るように日々努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイサービスやショートステイを利用して、面会者がいる場合は、職員間で連絡を取り合い面会などの場を設けています。施設外で会いたい場合には、家族と相談を行い、なるべく希望に添えるようにしています。 (外部評価) 兄弟姉妹に会いに行きたい、行きつけの美容室へ行きたい等、利用者の希望に合わせて対応する様心掛けているが、可能な範囲で家族による外出介助をお願いしている状況である。定期的に、家族と一緒に主治医を受診し、その後は外食も楽しんでから事業所へ戻られる利用者も多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に職員間で入居者同士の関係について気になることを話す機会を設けています。申し送りやカンファレンスを通じて職員全員に直ぐに伝達できるように、また、ケアに繋がるようにしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) その後もその方の状態を気にしながら、不定期ではありますが、こちらから声掛けを行っています。また、いつでも相談に乗れるよう日頃から信頼関係の構築に努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員が日常生活の中で、入居者の希望や意見を聴き、申し送りやカンファレンス等で報告し、職員全員で情報の共有を図り、統一したケアができるように取り組みを行っています。また、入居者の馴染みのある場・地区への外出ができるように努めています。 (外部評価) 意思疎通が上手くはかれない利用者もいるが、家族からの話を聞いて、できる限り本人の意向に沿った生活が送れるよう配慮している。また、入浴時などは利用者と職員が1対1になる場面であるため、利用者から本音が聞かれることも多く、そのような機会を逃さないよう気を付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前・後に本人やご家族、在宅担当ケアマネ等から情報を収集し、各個別表に記録し、職員間で情報を共有できるようにしています。また、入居後も職員との会話等の中でわかったことは、追記し、職員間で伝達しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一人一人の1日の状態が把握できるようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的カンファレンスを行っています。職員全員で利用者の性格や行動、思いなどを把握して、介護計画を作成しています。また、家族参加が難しい時は、カンファレンス等で出た意見を家族が来室した時に話し合い、意見交換を行っています。	
			(外部評価) 日々の経過記録も含め、すべてパソコンでの入力となっている。入職当初は戸惑い、慣れるまでに時間がかかる職員もいるが、皆徐々に慣れ、現在ではすべての職員がパソコンでの入力を順調に実施できている。サービス担当者会議にはできる限り家族にも参加してもらい、日頃の様子をお伝えするとともに、家族からの要望も伺う機会となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に日々の状況を細かく記載するように心がけています。気になることは何でも記載して、そのことについても検討する機会を設けるようにしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の設備（リハビリ施設、交流センター、入浴装置、福祉車両等）をその時の利用者の状況や要望に合わせて、他部門と連携しながら柔軟に対応しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関等と連携を図り、問題点や要望があれば気軽に協力・依頼ができるような関係作りを構築しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前のかかりつけ医との関係を入所後も断ち切らないよう にし、必要があれば職員が連絡を取り、受診ができるように 支援しています。また、本人や家族の希望を聞きながら協力 医療機関、協力歯科医療機関と連携を図りながら対応してい きます。 (外部評価) 事業所へ入居する前にかかっていた主治医に、引き続き通院 している利用者も多い。その際は家族か職員が通院介助を 行っている。また、整形外科医の往診が定期的であり、敷地 内にあるリハビリ施設へは、現在入居中の利用者全員が、ほ ぼ毎日通っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 施設の看護師と毎日連絡を取り合って情報交換をしていま す。また、医療連携の看護師も入居者の健康把握・管理を 行っています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関との連携は図っています。また、他医療機関 に、掛かっている場合でも情報交換や相談をするようにし て、連携が図れるように努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針を作成し、家族に説明・同意を得て、家族・協 力医療機関、職員が協力できる体制を取っています。また、 職員が外部研修に参加し、それを元に勉強会を開催して、知 識を深めています。 (外部評価) 開設して5年目になるが、まだ事業所で看取りを行った経験 はない。他の事業所や医療機関で看取りの経験がある職員も 数名おり、研修も定期的に行っているため、看取りの体制は 整っている。現在の入居者の中にも重度の方がいるが、全員 が共用スペースで食事をとり、個室に閉じこもることのない よう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 今年度は、消防署による出前講座にて、実際に急変時への対応に備えた講義（心肺蘇生、AED）を受け、模擬実践を行う。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年、年2回防火防災避難訓練を実施しています。施設内の職員と連携を図れるようにして、災害時に対応できるように努めています。地域と協力できるように、運営推進会議を通して情報交換を行い、協力体制を整えていっています。 (外部評価) 施設全体で、様々な時間帯や災害を想定して避難訓練を実施している。水と食料品の備蓄もあり、事業所の近くには大勢の方が避難できる施設が少ないこともあるため、事業所のある複合施設自体が避難先になることも考えられる。現在、避難訓練への地域住民の参加はないが、運営推進会議等の機会に報告を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から、一人ひとりのプライバシーを損ねないようなケアが出来るように心がけ、スタッフ間で入居者に対する言動など普段から個別に話し合えるようにしています。 (外部評価) 利用者がすごしている共用スペースでは、職員間で利用者の話をする場合は、個人名を出さないよう配慮し、部屋番号で話すようにしている。また、全個室にトイレが設置されているが、個室とは言え、排泄介助の際には必ずトイレのドアを閉めるよう、新人研修等で指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から本人の希望や思いを聞き出せるような関係を築けるように心がけており、一人ひとりと話を伺えるよう努めています。また、本人が理解し、納得出来るように何事も良く説明をするようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の毎日の健康状態をよく観察し、把握することで、その人のペースを崩すことなく生活していただけるよう努めています。希望があれば、入浴や散歩など柔軟に対応するようにしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣をする際は、自分で服を選べるように声掛けや助言を行っています。また、外出時には、女性は化粧を行っています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節にあった食事が提供できるようにしています。その都度、味や固さ、量なども感想として聞けるようにしています。調理などはできませんが、配膳や食事の片付けはお手伝いして下さいます。入居者が主体となり、おやつ作りに力をいれています。	
			(外部評価) 複合施設の厨房が1階にあり、そこで調理した食事を事業所内のキッチンで仕上げ、盛り付け配膳している。3食とも、職員は利用者と一緒に食べているが、食事に介助が必要な利用者が少ないこともあり、皆でおしゃべりをしながら穏やかに食事を楽しんでいる。利用者と共におやつ作りをする日もあり、おはぎ作りなどを企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は、職員が見守り毎食後に食事量チェックしています。水分は、毎食事の時、入浴後、レク、リハ後に身体を動かす前後で水分補給促を実施しています。夜間は、配茶やキッチンにお茶を準備していつでも飲むことができるように準備をしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員が毎食後に口腔ケアの声掛けを行っています。自分できない方や、磨き残しがある方には、特に就寝前に口腔ケアを行い口腔内を確認するようにしています。また、協力歯科医師の往診にて連携を図り、歯科衛生士が、職員にも口腔ケアの指導をして下さり、口腔内の清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用して、排泄リズムを掴み、その方の状態に合わせて、トイレ誘導や見守りを行っています。自立に向けて職員間でカンファレンスを行い、その方にあった排泄介助を行っています。	
			(外部評価) 全個室にトイレが設置されている。排泄チェック表を付けてリズムをつかむことで、適切なタイミングでの誘導ができるようになり、紙パンツから布パンツに替えることができた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の場合は、なるべく自力排便出来るように運動を促したり、水分補給を促すなどのケアを行っています。しかし、どうしても時は、看護師や医師に相談し便秘薬を使用するなどの対応を行っています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個別入浴でゆっくりと入浴を行っています。基本的には、週3日の入浴を実施していますが、本人の希望によりいつでも入浴できるように準備をしています。入居者の状態を考慮しながら、必要に応じて併設施設内の特浴を利用しています。	
			(外部評価) 少なくとも週に3回は入浴できるように支援している。事業所内の浴室で職員と利用者が1対1で入浴介助を行うことが基本であるが、一部介護度の高い利用者の場合は2名体制で介助している。現在はおられないが、必要に応じて、複合施設内の介護老人福祉施設の特別浴槽を活用することになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり個々人の睡眠ペースを尊重するようにしています。眠れないと居室より出て来られる方や不安がある方には、職員がしばらく側についてお話をしたり安心していただけるような対応を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服用している薬と効果・副作用がわかる一覧表を置いてあり、現在、服用中の薬や変更になった薬などを直ぐに情報が共有できるようにしています。新しく処方された薬に関しては、特に服用後の状態観察を徹底しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまでの活動に加えて、趣味や生活ペースを崩さず続けていけるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした取り組みをもう一度見直し、その人に合った取り組みを行っています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば家族の相談のもと、体調の許す限り自由に外出していただいています。なるべく、家族の方に協力していただく様にはしていますが、職員が同行したり、外出先の方に協力していただくこともあります。 (外部評価) 日々の外出としては、午後の時間帯に利用者全員が参加している、敷地内のリハビリ施設の利用である。また季節に応じたお花見などの外出行事を企画しているほか、パンの移動販売などが事業所に来るため、そこで買い物をする等して、気分転換がはかられている。必要な日用品があれば、個別に職員が外出を支援し、買い物に出掛けている。	リハビリ施設利用のため、事業所からは毎日外出しているが、今後はさらに、敷地外へも出掛ける機会を増やしていくことが望まれる。外食やドライブなど、可能な範囲で利用者の希望に沿った外出支援ができるよう、今後の工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、自由に所持していただいています。認知症が進行してる方や置き忘れ、物盗られ妄想などがある方に関しては少額を所持していただいています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホーム内の電話を自由に使用して電話をしていただいています。手紙を投函する場合は、家族に確認して頂いて投函します。また、お正月には、家族宛に年賀状を職員とともに作成し、送付しました。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホーム内や居室は、すべて畳み敷きで家庭環境に近い雰囲気になっています。大きな窓を使用して、自然の光を取り入れています。掲示板では、利用者と一緒に作った季節にあった飾り付けを行っています。</p> <p>(外部評価) 施設の共用空間では、ガラスの壁が効果的に使われており、洒落たベンチや生け花が飾られて、開放的でくつろげる環境である。また事業所内の床面は、畳風のクッションフロアとなっており、和風家屋に慣れている利用者にとって、馴染みのある雰囲気でありつつも、衛生面への配慮も感じられる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ラウンジにテーブルと椅子を設置して、気のあった方と座って外の景色を眺めながらお話ができる場を作っています。また、リビングは、食堂とくつろぎスペースを設けて個別で話ができる場を設けています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内には、本人の使い慣れた物や思い出の物、家族の写真などを配置して、本人にとって暮らしやすい環境になるように工夫しています。</p> <p>(外部評価) 居室には、家具とテレビ、冷蔵庫などが備え付けてあり、家庭からの持ち込みが少なく、家族の負担が軽減されている。また、写真などの小物を持ってきてもらうよう家族に声掛けを行うことで、その方好みの家庭に近い居室空間作りに努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの出来ること出来ないことを職員が把握して、その能力に応じて作業を職員と一緒にしています。職員もその方にとって出来るかもしれない事を実際に挑戦したり検討する場を設け、意見を出し合うようにしています。</p>	